

審議会の概要	
名 称	令和7年度 第5回向日市地域福祉計画策定・推進委員会
日 時	令和8年2月17日（火）午前10時から午前11時20分まで
場 所	永守重信市民会館 2階 第2会議室
参 加 者	（委員）石井委員、橋本委員、山本委員、籠谷委員、亀山委員、 前坂委員、芦谷委員、村上委員
	（幹事）柴田、伊藤、田口、藤野、熊上、楠堂、里見
	（事務局）岩尾、清水
	（オブザーバー）向日市社会福祉協議会事務局長、総括次長
議 長	石井委員長
傍 聴 人	1人
議 事	
1	開 会
2	議 事
	<p>（1）計画最終案について</p> <p>事務局から計画最終案について説明。</p> <p><b>【主な意見等】</b></p> <p>（委 員） パブリックコメントの実施結果として意見等が0件ということで、件数の捉え方は様々ではあるが、過去の実績と比較して事務局はどう捉えているか。</p> <p>（事務局） 前回のパブリックコメントについても、今回と同じく意見等は0件であった。地域福祉計画への意見は0件だったが、公民館やコミセン等の同じ場所で意見募集をした第3次男女共同参画プラン改訂版（案）のパブリックコメントについては、15件の意見が寄せられた。同じ時期に募集していたことから、市民の方々に見ていただけていないわけではないと思う。</p> <p>（委 員） 色合いも良くなって見やすくなりイメージ以上に良くできていると思う。</p> <p>（委 員） 見やすくなって良いと思う。16ページ（2）「障がい者手帳所持者の状況」で、年齢別の所持者数は教えてもらえるか。4級から6級くらいで若い方がどれだけいるのか知りたい。障がい者でもスポーツができる人であれば、障がい者スポーツに参加してもらって国民スポーツ大会に出場することもできると思う。</p> <p>（事務局） 年齢別の集計結果があるので、改めてお伝えする。</p> <p>（委 員） どのような支援が必要かは障がい者手帳の等級によって変わってくると思うが、年齢別によっても、それぞれに合った支援が必要だと思う。</p> <p>（委 員） 成年後見人について、最近の社会情勢がどう変わっているかわからない部分はあるが、申請を出して後見人が決まったら変更ができない。申請者の希</p>

望した人に100%なるわけではなく、希望した人以外の人になった時に、その家族が崩壊しそうになることがある。後見人を息子にしたいと申請しても、息子の状況等が悪いと他の弁護士とかに決まることもある。こういう問題が最高裁で争われて、見直すことになりかけていると弁護士に聞いたことがある。

(事務局) 成年後見人が変更できないことについては、国でも制度改正が検討されているところである。

(委員) 実際に制度があっても、運用していく中で不具合を実感した時に、それを声としてあげていくことは重要だと思う。この委員会も、その一つの場合かもしれない。

(委員) 成年後見人制度については、あまり知識のない分野なので勉強会のようなものがあれば良いと思う。委員の仰っていたように声を上げていかないと国も動かないと思う。

(委員) 今の意見については、地域福祉計画を住民や地域の活動者を委員として策定委員会で作成している意義だと思う。住民や地域の活動者等のさまざまな方の意見が反映されることが、この会議の重要な部分だと思う。この計画を広く知ってもらい、市民の地域福祉への参加のきっかけになれば良いと感じた。

(委員) 以前のものに比べてイラスト等が入って、とても見やすくなった。この会議に参加するにあたって、事前の勉強会のようなものがあれば、より理解が進むと思った。

(委員) 自分の中でしっかり理解して、意見を言いたいというお気持ちはありがたいと思う。事前の勉強会については次の計画策定の時に検討していただきたい。

(委員) 以前の会議で計画策定後にどうやって活用していくかの話の際に、団体の長に周知して、関わりのある人たちに広めてもらおうという話があった。それをするうえで、資料編の用語解説はとても役立つと思う。これを付けることによって、正しく多くの人に伝えられるので良いと思う。

(委員) 過去の委員会の協議内容が反映されたレイアウト等になっていて、とても読みやすくなった。まずは、この計画を本会の職員にしっかり周知して、自分たちの業務はこの計画のうえに成立していることを自覚して業務に臨みたい。社協としては、地域福祉を推進する役割を担っているので、関係機関・団体の皆様にこの計画を知っていただく機会を作る必要があると改めて感じた。具体的には、以前の会議の意見で、身体障害者協会の活動について、ケアマネジャーと連携して活動を周知できればという意見があったので、早速ケアマネジャーに身体障害者協会の活動内容について情報提供した。

また、他法人の居宅ケアマネジャーとも、意見交換の場を作り、そこでも身体障害者協会の活動を伝えたが、ご存じない方もいたので今後も周知していく必要があると感じた。その周知するツールとして、この計画を活用していきたい。

(委員) 社会福祉協議会は中間支援組織ということで、いろんな団体や住民とのつなぎ役として、きっかけづくりの部分で期待するところがたくさんある。

(委員) 先ほどの意見にもあったように、用語解説がとても良いと思う。包括支援センターは市内のケアマネジャー連絡会等を開催しているので、そこで計画を周知する機会があっても良いと思った。冊子については、柔らかい印象だと思った。高齢者は文字がたくさんあるものに抵抗があるが、この計画は柔らかい印象で読みやすいと感じた。また、男女共同参画のパブリックコメントについて、15件も意見等があったということは、今そこについての意識が高いということだと思う。

(2) 第2期向日市地域福祉計画（後期計画）及び第1期向日市自殺対策計画の進捗状況について

事務局から進捗状況について説明。

【主な意見等】

(委員) ひとつひとつの取組に関する評価は詳細に表記されているが、例えば、関係各課の連携について、進捗の手応えについて、計画は順調に進んでいるかなど、領域ごとに少し気になる点があれば、報告いただきたい。

(事務局) 計画策定業務に加えて、日々の業務においても関係各課と連携して業務を進めている。課題については、アンケート結果のとおり、福祉についての周知が足りない部分だと認識しているので、引き続き広く周知していきたい。

(事務局) 小さい自治体なので、各課がうまく連携できていると思う。懸念点については、各事業所や市民との距離感が遠い部分があると感じる。申請に来られた方への対応がメインになるので、行き届いていないところがまだまだあると思う。各事業所へ行政がうまく入って、連携を深めていくことができれば、より良くなると思うので、今後は現場にでる機会を増やしていきたい。

(事務局) 業務の対象が子どもということもあり、健康推進課や子ども家庭課と連携して業務を進めている。課題については、対象が重なることが少ない高齢介護課との関係が薄くなり、事業の把握等があまりできておらず地域福祉という観点で連携が薄くなっていると思う。

(事務局) 団体との活動については、密に連携をとって進めているが、この会議で出た意見等を参考にして業務を進めていきたい。また、他部署とも連携して、地域福祉の推進をしていきたい。

(事務局) 子育てコンシェルジュ、家庭の訪問等の各種事業で保健師や助産師が妊婦や子どもと関わる中で、いろいろな気づきをするという点に力をいれている。庁内の連携については、子育て支援課、子ども家庭課と密に連携を取っている。

(事務局) 今回、地域福祉活動計画と地域福祉計画を一体的に作成する中で、当然ながら行政との連携は重要と考えている。特に地域福祉課、高齢介護課、障がい者支援課と連携を深めているところである。複合的な課題でお悩みの方がおられるので、普段なかなか連携をとれていなかった部署としっかりと連携していかなければいけないと考えている。本会の進捗状況で A が多かったが、これはデジタル数字で計るものではないため主観的な部分が含まれる。行政の進捗状況についても、もう少し A が多くても良いと思う。そのあたりの整合性についても、今回一体的に計画を策定するので、検討する必要がある。

(事務局) 各事業は各所管で取組を進めているが、大きくみると少子高齢化が進んでいる。昨年については、生まれた赤ちゃんと 88 歳を迎えた人がほぼ同数だった。高齢化が進む中で、先ほどの意見にもあった権利擁護等については、先を見据えて、皆様方と連携しながら進めていきたい。

(委員) 3 番の「絵本のよみきかせの開催支援」について、地域福祉課が考えているこの事業の目標ラインがあれば教えて欲しい。

(事務局) 絵本のよみきかせは、主任児童委員の皆様が趣向を凝らし、地域のボランティアの力も借りながら、毎回 2 桁の人数の子どもさんと保護者が来ている。健康相談の日に合わせて実施しているが、絵本のよみきかせをメインで来ましたと言っていた声が増えている。主任児童委員は同じ方がずっと続けていただけるわけではないので、どなたが担っていただいても継続できる形を作っていただければありがたいと思う。また、その支援をするのが我々の業務と認識している。

(委員) よみきかせも素晴らしいし、親御さんもいろんな方と顔見知りになることができてすごく良い取り組みだと思う。

(委員) この資料には載っていないところではあるが、過去に包括支援センターと健康推進課が介護予防の部分で連携したが、そういった部分をもっと広げていってもらえたら良いと思う。

(事務局) 健康推進課の業務について、資料には子どもに関することがメインで載っているが、高齢者の病気にならないための健康作りについても、力を入れていきたいと考えているので、関係機関等との連携を進めていきたい。

(委員) 福祉に少し関連する医療や教育との関係性について、計画を進めていく中で、共通理解が必要かと思うが今の状況はどうか。

- (事務局) 冊子の4ページに他計画との関係について記載している。部内では、しっかり各課が連携しながら計画を作っている。福祉分野では密に連携ができているので、教育分野についても今後もう少し連携を深める必要があると考えている。
- (委員) 社協まつりのキッズコーナーで、高齢者になったときの見え方や歩き方体験のコーナーがあり、実際に自分の体で感じることができ、良い取組だと思った。
- (委員) 教育の連携においては、ボランティアセンターで福祉教育出前講座に取り組んでいる。ボランティア団体や身体障害者協会の方が講師として、市内の小中学校で障がいや福祉について学ぶ授業を実施している。社協は学校と団体をつなぐマッチングを行う事業をしている。授業を受けた子どもからは、非常に勉強になったという感想文をいただく。ボランティア団体からも日々の自分たちの活動の成果発表ができる場としてやりがいを感じているという声がある。子どもたちから福祉を身近に感じていただく機会として、福祉教育出前講座は非常に重要な事業と認識している。
- (委員) 進捗状況の27番について、現計画でも学校教育課と連携がある。「福祉体験の実施」や「認知症サポーター養成講座の開催」など、引き続き教育との連携を進めていきたい。
- (委員) 身体障害者協会をアピールする場所がない。もっと会員を増やしていきたい。一度協会に入ってスポーツをしてみると、みんな楽しんでいる。もっと若い人に来てもらいたい。今は障がい者スポーツが盛んになってきているので皆様にご協力お願いしたい。
- (委員) 49ページ相談窓口の、「京都自死自殺相談センター Sotto (そつと)」の欄に、「※多数のメールをいただいたときに新規の相談をお受けできないことがあります。」とあるが、この文章は必要か。これは主催者側の気持ちであって、今死ぬか生きるかを考えている当事者にとって、こんな文章は不要だと思う。自分であればメールしない。また、「よりそい」という字をもう少し大きくする等、工夫してはどうか。直接的でストレートな言葉は、当事者にとってはすごく抵抗がある。
- (事務局) 内容については、相談窓口のホームページをそのまま一旦掲載している。修正については委員の意見を踏まえて検討していく。